

多摩デポ通信 第10号

特定非営利活動法人共同保存図書館・多摩

2009年5月6日発行

〒182-0011 調布市深大寺北町一・三一・一八

● H P / <http://www.tamadepo.org/>

● E-Mail depo_tama@yahoo.co.jp

ステップの年に向けて

理事長 座間 直壯

陸上競技の種目に三段跳びという競技があります。アスリートたちは助走に入る前にスタンドのお客さん

から大きな拍手をもらい、自らの気持ちを最高潮に高め、助走を開始する。スタンドでその姿を見守る観衆は精一杯競技者に対してエールを送る。助走からトッスピードに切り替え、思いつき踏み切り板を蹴って最初の跳躍（ホップ）をする。そして、次の跳躍への姿勢を空中で整え、踏み切りで使った足と同じ足で着地をし、次の跳躍（ステップ）に入る。

NPO法人共同保存図書館・多摩は、今まさにこの瞬間なのです。発足当初、多くの方々の応援をいただ

き、多くの方々が見守る中で助走を開始し、昨年4月NPO法人として認可され、前国立国会図書館副館長の安江明夫氏の記念講演をいただく中で第一回総会が開催されました。

その後、NPO法人共同保存図書館・多摩は、学習会を中心にした啓発活動を積極的におすすめしてきました。9月には、活動に深いご理解をいただいている財団法人たましん地域文化財団の保坂一房氏にお願いし、「地域資料の収集と保存―たましん地域文化財団歴史資料室の場合―」と題して、第一回多摩デポ講座を開催しました。

翌10月は、(株)潮之瀬(出版社)の芳賀啓代表に講演と国分寺崖線の見学案内をしていただきました。

続いて12月、図書館長協議会が東京都市長会の補助を受けて作成した『多摩

まもなく、09年度 定期総会 開催

～ぜひお集まり下さい

日時：5月31日(日)午後2時～4時30分

会場：国分寺労政会館地下第一会議室

JR国分寺駅南口5分 旧勤労福祉会館

電話：042-323-8515

記念講演：梅澤幸平氏

(前・滋賀県立図書館長、現・滋賀県審議員)

演題：「図書館の役割と資料保存」

13:30	開場、受付開始
14:00～15:00	定期総会
15:00～15:10	休憩
15:10～16:30	講演および質疑
17:00～19:00	場を移し懇親会

地域における共同利用図書館検討調査報告書』を読む」と題し、その解説と活用について、東京都町村立図書館長協議会の共同利用図書館検討委員会元委員長の木村稔東村山市立図書館長にお話をいただきました。

そして初年度最後の第四回講座は、我が法人の副理事長である平山恵三に「公共図書館・地域資料供覧の空気を全国の図書館を訪ねながらの感想と希望」と題し、全国を巡ったの思いを語ってもらいました。

このように図書館の資料保存と活用について、いろいろな方から様々な視点でお話いただき、各回毎に充実した内容で、参加された方々からも中身の濃い、よい内容であったとお言葉をいただきました。講座の内容は、今後「多摩デポブックレット」としてシリーズを発売していく計画です。

また、「本の里親探し」事業も事務局の人たちの強力な頑張りで、開始直後から多くの利用があり、幸先の良いスタートとなっています。詳しくはこれまでの「多摩デポ通信」にありますのでご参照ください。

NPO法人としては、本体の事業の着手にはまだ時間がかかりそうですが、関連する種々の事業は順調に進んでおり、昨年の図書館総合展でも「ポスターセッション」に参加し、「NPO法人共同保存図書館・多摩」の存在を全国にアピールしてきました。

今年度は、第一の跳躍「ステップ」の年です。今度は踏み切りで使った足と違う足で着地し、第二の跳躍「ジャンプ」に繋ぐ大事な跳躍をする年なのです。今年度も内容豊富な多摩デポ講座を企画し、好評の「本の里親探し」の充実に努めていきます。

いと考えています。また更なる飛躍に向け新たな会員を募っています。

是非皆さまのお近くの方にも声をかけていただき、ご参加をよろしく願います。今年も皆さんと一緒に考え実践していく、NPO法人共同保存図書館・多摩を目指していきます。



**多摩デポブックレット
第1号／発売！**

前号予告のとおり、「多摩

デポブックレット」第1号、安江明夫さんの講演記録『公共図書館と協力保存―利用を継続して保証するために―』完成です。発行は総会開催の5月31日。A5版、定価630円（本体価格600円）、立川・けやき出版からの刊行です。

第1号は千部印刷し、会員には無料配布することが理事会で決定しています。総会参加者には湯気の立つ第1号を当日お渡しできますので、お楽しみに。

安江さんの創立総会での、シャープな内容を軽快にお話になった様子を再現できたか心許ないのですが、お読みになり、どうぞご感想を寄せてください。

会員外の方には購入をお勧めくださいますよう、よろしく願います。（ブックレットは、年3回発行。各号630円の予定です）

第四回多摩デポ講座

平山さんは

覆面調査員だった？

蓑田明子

(東大和市立図書館)

今回の多摩デポ講座は、「利用者は食欲に自分の目的を達成したいもの」ということを、再認識させてくれた。そして、普段の自分の対応が小役人然としていくことに、寂しさを感じた。タイトルに「覆面調査員」と穏やかでない表現を使っていたが、これは平山さんがご自身のライフワークの各地の信用金庫の歴史を調べるために図書館などを訪ねる様子が、お店の品質を確認するために、お客になりきるミシユランの調査員を連想したからだ。

「公共図書館のサービスは、地元住民のためを第一

に考える。」それが自明のことのように考えていたが、それに加えて、もつと違う見方もあることを教えられた講演会だった。

例えば、あちこちの図書館や郷土資料館の職員に、地元に関する貴重な資料を譲られたり、特別に貸出しをもらう平山さん。それらのゆかりの本を、次々と大きなトランクから出して見せてくださった時のいとおしそうな様子。その探究心が各地の図書館人にも伝わり、そこで何か電流のようなものが流れる。あえて、図書館員でなく、「図書館人」と呼びびたくなる人たちの存在が、その図書館を箱モノから、「資料の宝庫」として、活き活きと利用者と資料を出会わせる。信頼できる人かどうか瞬時に見抜き、機転を利かせる、そんな度量の広いことを私はできていないと、小さくなる。

また、地域のことを聞かれた時に、人脈も資料提供の方法の一つと改めて知る。そうした情報が自分の中にインプットされているかと自問すると、それも危うい。観光地でなくても、「外から来る人にやさしく、役に立つ図書館」という考え方を、もつと深く考えてもいいと思った。直接貸出しできない利用者には、私たち図書館員はとかく、「まず、あなたの地元の図書館で」と声をかける。でも、もつと積極的な対応をしている図書館人が全国にいるのだ。

そして、地域資料は「全世界でここが専門図書館」と分かりながらも、まだまだ手付かずの資料があることも今更ながらに考えた。それは「本」の形態ですらないかもしれない。登記簿の保存期間が登記所で思いの外、短期間であること、危うさを話題にされていた

が、私も公的文書の保存は、その時々仕事の視点から保存期限では足りないと感じている。市役所でも永久保存の対象はごく限られているからである。

自問することの多い二時間だった。

多摩デポ講座の感想

(匿名希望)

平山恵三さん(NPO法人共同保存図書館・多摩副理事長)による「公共図書館・地域資料供覧の空気」全国の図書館を訪ねながらの感想と希望」についての、実践にもとづいた心のこもった丁寧なお話に、感心感動いたしました。思い切って、初めて出席いたしましたと思われました。ありがとうございました。(中略)

趣旨には賛同しながらも、

会の実際、実態を知る機会を得ずにおりましたが、この度この会では、理事の方のお話をはじめて直接うかがって安心信頼を得て、またたくさんの御出席の皆様に出会い良い印象を得、勇気と希望を得ることができました。

私個人としてもリストラ、パワハラにさらされるなか、一般市民として政府のありかた、銀行のありかたに疑問と反発をいだくなかで、平山恵三講師の考え方は、図書館、信用金庫、信用組合のありかた、レファレンスには欠かせない『多摩のあゆみ』を発刊しつづけている「たましん」に長くお勤めになったことに全く矛盾することなく、愛のある幸せな自由自在なたたずまいで、一筋に御研究を続けられていらつしやることに会場の皆様と共に、うれしさ楽しさを感じました。ま

ことにうらやましく、憧れさえいだけせるものであったと思います。

平山講師の移住先の山梨県北杜市の図書館長の方が、わざわざお見えになつていただくことも信用信頼の証としてご報告をいたします。

我身をかえりみて、これからをどうすべきか教えられたように思います。

保存と利用の関係

—秋岡梧郎さんの図を

もとに

ちば おさむ

3月1日の多摩デポ講座に参加した際、保存と利用の関係について図書館界の先人、秋岡梧郎氏がかつて言われていたことについて、私が以前『図書館評論』に書いたことを発言した。会

場では、読んでおられる方がなかったようなので、紹介する次第である。

『図書館評論』第32号(1991.5) p.57「資料更新の方法—開架(接架)を新鮮に」より

……今日の話は資料更新ということが主体になるので、いうなれば、どんどん捨てましょうという言い方に聞こえがちになることを危惧する。そこで、保存と利用との関係について最初にお話ししておきたい。

そのことで思い出したのはなくなられた秋岡梧郎さんによる図である。

(図2)

秋岡さんの図で斜めの線がどこから出ているかについてもいろいろ考え方があられるかもしれない。この秋岡さんの図から私

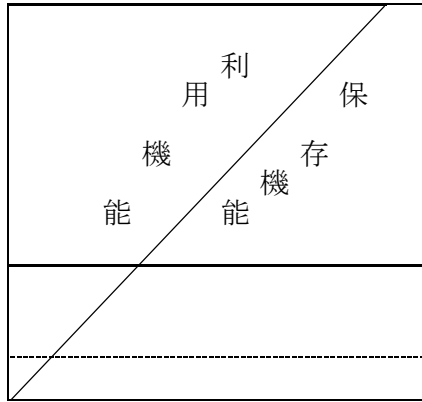
なりに考えたのが(図1)で、斜めの線も点線とどらえておいた方がよいと思う。

このことで今日は討議したいとは思っていない。要するに公共図書館の利用、保存の機能は、それぞれの図書館のいろいろなレベルに応じてあるのだということ念頭においておきたい。

1. 左—利用者(現在)、右—未来、
上—市区町村立、中—都道府県立、下—国立国会
2. 上、中、下の割合は、とりあえず7・2・1とする。(資料のタイトル数)
3. 殆ど保存のところでも1割は利用、殆ど利用のところでも、5%は保存。

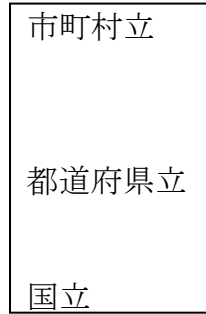
現在

利用者



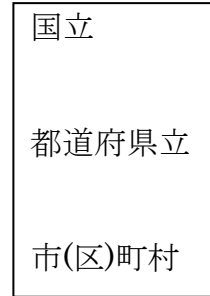
未来

図1



4. 全体を真四角にしたのは割合を見やすくするため、点線は可変。

図2



公共図書館における
利用・保存機能の相関
図(原案 秋岡梧郎氏)
1990.10.23
ちばおさむ



元墨田区立図書館・佐賀市立図書館勤務、現獨協大学非常勤講師

*秋岡梧郎氏の「公共図書館における保存機能と利用機能」図(清水正三氏覚による)
「先生は耳に疾患があったためか好んで視覚化させて、小生らに説明されていきました。故中島春之さんは、よくこの図を使われていました。追伸 保存資料のなかで特に重要なのは地域資料であると、学生に喋っております。」(清水正三氏書簡より)

訪問 連載③

東村山市立

萩山図書館



今回も、「里親探し」成立資料のお届けに合わせ、書庫見学をさせていただいた。西武多摩湖線萩山駅から徒歩3分。萩山図書館は、都営アパートの一角に、昭和56年に文化センター・公民館と併設でつくられた。東村山市内に5館ある図書館のうち、3番目の図書館である。中心館としての中

央図書館、障がい者サービスのセンターの役割を持つ富士見図書館に次いで、16万冊収納の市内各館の共同閉架書庫を持つ図書館という役割を担っている。入口を入ると、すぐ右手にティーンズコーナー（東村山市立図書館は、どこもYAサービスが充実している）。その先には、日当たりのよい児童書コーナー。中央に位置する談話コーナーをはさんだ左手が一般書コーナーである。

館内は築30年近くとは思えないほどきれいで、緑色の塗装を施した木製書架もほとんど傷んでいない。一般書コーナーは、コの字形書架が向きを違えて配置され、無機的な配列の書架と違って、利用者がこここでくつろいだ気持ちで本を選ぶことができる。表紙見せのできる書架があり、また、壁面に並ぶ閲覧席の前

面は書見台風、上部に荷物が置ける棚付きと、当時としては斬新なデザインだったと思われる。今の時代にも十分通用し、便利に使えるようにできている。

書庫は、カウンター横の事務室側から入っていく。上下2層に17万5千冊が収まっているとのこと、すでに満杯の状態。ここには、市内の各図書館が除架した本のうち、複本を除いたものが入ってくる。6月の蔵書点検の際に、何十箱と運び込まれるのだそう。書庫の増設・新設は難しく、従って、溢れる分はやむなく厳選してリサイクルに回



すことになる。

書庫の本は、予約があると、毎日2回市内を巡回する連絡便で、各館に運ばれる。萩山図書館には駐車場が数台分あるので、市内各所から、直接書庫の本を見に来る方もある。毎月第1・3日曜日の2回、10時から11時の1時間は、書庫を利用者に公開している。利用カード提示や氏名記入をし、荷物を預ければ、自由に中に入っていく、借りる本を選べるのだ。

書庫に入ってみると、開架部分とはうって変わって、中央通路の左右と壁面に整然とスチール製の固定書架が並んでいる。約270㎡、なかなか広いスペースだ。コンクリートうちっぱなしの壁が、いかにも書庫らしい。2層というが、上下各層とも天井高があり、圧迫感はない。書庫にしては、通路や階段が広めで、

本の出し入れも、機能的で使いやすそうだ。なるほど、これなら「公開書庫」として利用者に開放できる、と納得した。ただ、空調設備が無く、夏暑く冬寒いという。その点では、保存環境は万全とはいえない。しかし地下ではなく1階部分なので、湿気は比較的少ないのではないかと思った。

30年前から、これだけの構想をもって図書館を建て、書庫を整備してきた東村山市立図書館の先見性に、今さらながら、とても感心させられた。

お忙しい中、訪問をご承諾、ご案内くださった宮後様、内野様、ありがとうございました。

(2月21日訪問)

武蔵野市図書交流センターで預かりだった都立再活用資料の、各市分配についての多摩デポの見解

2001年から始まった都立図書館の大量廃棄問題に、東京都市町村立図書館長協議会（以下、館長会という）は、都立図書館が廃棄した資料のうち約5万冊を貰い受け、多摩地域の図書館活動に資する資料として保存してきました。当初、町田市の旧小学校校舎に保管していましたが、その後、武蔵野市図書交流センターに移し、多摩地域図書館での資料の重複確認を行っています。その結果、多摩地域で全く所蔵していない資料及び一冊のみ所蔵の資料約2万4000冊を残し、他の資料は再活用資料として図書交流センターで活用

してもらいました。

しかし、残った2万4000冊の資料もそのまま図書交流センターに置いておくわけにはいかず、昨年度、館長会は、多摩地域各市の図書館で分担し保存することを決め、この三月に分配されています。

「NPO法人共同保存図書館・多摩」では、共同保存図書館を設置し館長会が保存していたこの2万4000冊の資料を原資として活用することも視野に入れて、活動をしてきました。また、多摩地域の図書館の全書庫収容能力は既に100%を超えており、各図書館でこれ以上の収納が難しい状況です。業務を増やさず資料活用・資料保存ができる方法として共同保存図書館を実現させ、そこで預かりたいと考えてきました。しかし、いまだそれは実現せず、各市に新たな業務が

増える結果となりました。

今回の館長会の処置は、やむを得ないことであり、多摩地域の図書館が分担保存に踏み切った点で、資料保存の一つの方向として評価したいと考えます。分担保存は、資料保存のための有効な手段です。しかし、それぞれの図書館に負担をかけ、コレクションの柔軟性を保障できないデメリットもあります。それを解消する方法として共同保存を提案してきたわけですが、都立図書館が廃棄した2万4000冊の資料についていまだ共同保存できなかつたことは、私たちの取り組みがまだまだ浅く、力量不足であったことになりました。理想と現実の厳しさを改めて実感しています。

今後、各図書館に配分された資料のデータ化や保存シール貼りなど、私たちの組織で出来ることがないか

を考え、各図書館の分担保存がスムーズに行われるようなバックアップを行いたいと考えます。

また、将来においては共同保存図書館を設置し、今回の2万4000冊も含め共同保存できるよう、今後も努力を続けていくつもりです。

東京都多摩地域

公立図書館大会の感想

江森隆子

2月12日（木）、13日（金）、19日（木）の三日間、多摩地域公立図書館大会が行われました。第3回目の今年のテーマは「持続可能な図書館活動の展望に向けて」。1年おきに大規模と小規模な大会を交互に行うので、今年は小規模。1. 資料保存 2. 視覚障害者

市立図書館閉架書庫収容力
奥多摩町日出町瑞穂町檜原村略

共同保存に関する調査報告
館長協議会 08年3月による

	自治体名	書庫収容冊数
1	府中市	800,000
2	武蔵野市	480,000
3	小平市	389,000
4	あきる野市	320,000
5	東村山市	310,000
6	調布市	300,000
7	町田市	285,000
8	稲城市	212,000
9	西東京市	200,000
10	多摩市	200,000
11	立川市	184,000
12	羽村市	168,000
13	日野市	147,000
14	小金井市	142,000
15	青梅市	106,000
16	東大和市	105,000
17	福生市	100,000
18	国分寺市	90,000
19	国立市	85,000
20	清瀬市	60,000
21	狛江市	33,000
22	昭島市	13,000
23	武蔵村山市	10,000

八王子市	独立の記載無
三鷹市	同上
東久留米市	同上

サービス 3. 地域資料の3分科会。私は12日の「多摩地域図書館の連携・協力・保存の現状と今後の展望」に参加しました。

はじめに安江明夫氏が基調講演「広域連携と資料保存」を話されました。NPOでも昨年に安江氏を招きました。今回安江氏はさらに明快・簡潔に話され、パネルディスカッションでは、活用に積極的に取り組む必要を話されました。

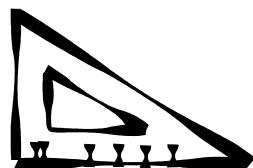
パネルディスカッションは森田秀敏氏（福生市立中央図書館長）が西多摩地域の相互利用を中心にした

広域連携について、今後の展望も含め話されました。国分一也氏（武蔵村山市立雷塚図書館）は都立図書館の「貸し渋り」の影響がどのように図書館にあらわれているか、どのようにサービスを滞りなく進める努力をしているか、具体的な事例も入れて報告、さらに木村稔氏（東村山市立中央図書館館長）は「共同利用図書館検討調査報告書」を中心に、多摩全体の保存と除籍の実態をふまえて、どのように共同利用図書館を実現してゆくか展望も語られました。

どの報告も、これまで多摩の図書館が積み重ねてきたサービスをさらに充実させてゆくために、職員と市民が乗り越える課題について考えさせてくれました。

市民には見えにくい水面下の努力については、この大会はとてもよい機会なのだから、もう少し事前PRを積極的に行い、広い会場が職員と市民でうまるようにできなかったのか、残念でもありました。

いよいよ二年次突入へ！



★会の現勢

●会員

(個人会員101名)

(団体会員3団体)

●賛助会員

(個人33名)

(団体2団体)

5/09年4月30日現在

※年会費

・正会員(個人・団体)

五千円

・賛助会員 一口二千円

(個人一口以上団体五口以上)